

子どもの健全育成と、SDGsの目標のうち『貧困をなくそう』『すべての人に健康と福祉を』『質の高い教育をみんなに』の実現に資する活動への支援

## 「アートで結ぶ相互理解・交流の架け橋事業 ～在日朝鮮児童との交流～」事業

「アートは世界の共通語」をスローガンに、  
アジア地域の子どもたちとの交流を続ける

「造形」という芸術活動を通じて、アジアと日本の子どもたちをつなぐことに取り組んできたが、在日朝鮮児童に焦点をあて、ワークショップや展覧会を通じて日本の児童と交流する事業を実施した。互いに理解しあい、尊重しあう、分け隔てのない共生社会を築くための礎になってもらおうという取り組みに対して、参加者から感謝の声が届けられた。



朝鮮学校や日本の特別支援学級の児童が描いた絵画展を開催



### 日朝の相互理解と友好増進のために 造形活動を通じた交流を実施する

「アートで結ぶ相互理解・交流の架け橋」実行委員会を主管するNPO法人「国際教育情報交流協会」は、「アートは世界の共通語」をスローガンに、2008年からアジア地域の子どもたちと日本の児童とを「造形」でつなぐ活動を行い、着実に実績を積み重ねてきた。参加してくれた児童や学校には画集やDVDを無償で贈呈し、大変喜ばれている。

2020年に朝鮮、ネパール、インド、ミャンマーなどの在日外国人児童との交流を行ったが、この経験を活かして、日朝の相互理解と友好増進の役割を担うためにさらなる交流活動を行うことにした。

アジア各国からの在日外国人は新型コロナ禍を除けば増加傾向にあるが、在日朝鮮児童の数は減少している。在日4世、5世以降では日本への定住が大前提になっており、国籍法の改正等で日本人化が進んでいることも減少の一因となっている。その一方で、ヘイトスピーチやネットでの誹謗中傷など、在日朝鮮人の置かれている状況は厳しくなっており、お互いに認め合うという相互理解が進んでいない現実がある。一般の日本人が在日朝鮮人の方に、「あなたは日本に税金を払っているのですか」などといった言葉がまだまだ出てしまう現状が見られる。

そのような状況のなかで、朝鮮の文化や言葉を継承している朝鮮学校児童と絵を通して触れ合い、お互いを理解しあうことは、共生社会実現のために意義のあることで

ある。閉塞感が強まっているときだからこそ、子どもの目線で交流を進めることが友好の土台づくりに貢献できると考え、ワークショップや展覧会を実施することにした。

### 東京、千葉、埼玉の朝鮮学校と 台東区の特別支援学級が参加

朝鮮半島にルーツを持つ在日朝鮮人は約60万人とされている。その一部である東京、千葉、埼玉の児童との交流がどこまでできるか心配する声もあったが、当該地域にあるすべての朝鮮学校(初級部)9校と、日本からは台東区立金竜小学校の特別支援学級(かたばみ学級)が参加してくれた。

「海の生き物」「アマゾンの森」「自由」をテーマに、朝鮮学校では大きな和紙に墨絵を共同で描き、金竜小学校では大きな板面紙に各自が絵を描くワークショップを実施

した(参加児童87名)。ワークショップ以外にも参加した学校の児童による絵の制作を行い、116点の作品を集めた。なお、これらの作品(総数147点)は、2023年2月14～19日に新宿区四谷のCCAAランプ坂ギャラリーで開催した絵画展で展示した。また、作品を掲載した画集、表彰状、ワークショップの模様などを収録したDVDが、参加した児童、学校関係者などに無償で贈呈した。

参加してくれた朝鮮学校の校長からは、「共に生きていくことを認め合う社会が大事」「助けてくれている地域社会の広がりを全国に」という言葉が届けられた。また、ワークショップで大きな和紙に筆で墨絵を描くことを初めて経験した児童も多く、子どもたちや関係者からは「いい出会いと楽しい時間を過ごすことができました」「こんなにきめ細かく対応してもらったのは初めてです」「毎年続けてほしい」といった声が寄せられた。



新宿区四谷のCCAAランプ坂ギャラリーで開催した絵画展のチラシと作品やワークショップの模様などを収録したDVD



### 助成団体:「アートで結ぶ相互理解・交流の架け橋」実行委員会



### POSCの助成により、私たちの活動がますます充実・深化してきました

子どもたちが生み出す造形を基に、平和を願い、国際交流を進めるための活動ですが、今回は朝鮮学校を軸に、日本の特別支援学級の参加を含め、充実した内容の展開となりました。「平和」は人類の望む共通のテーマです。各々のアイデンティティを理解し合い、平和を祈念し、国際交流をさらに深化できるよう、今後も活動を続けていきます。

「アートで結ぶ相互理解・交流の架け橋」実行委員会  
北海道教育大学名誉教授 相田 幸男さん